

鑑定

芥川龍之介

青空文庫

三円で果亭くわていの山水さんすゐを買つて来て、書斎とこの床に掛けて置いたら、遊びに來た男が皆その前へ立つて見ちや「贗物がんぶつぢやないか」と輕蔑けいべつした。滝田樗陰たちたしゆいん君の如きも、上から下までずつと眼をやつて、「いけません」と喝破かつぱしてしまつた。が、こちらは元來怪しげな書画を掘り出して來る事を以て、無名の天才に敬意を払ふ所以ゆゑんだと心得てゐるんだから、「僕は果亭くわていだから懸かけて置くのぢやない。画ゑの出来が好いいから懸かけて置くのだ」と号して、更に辟易へきえきしなかつた。けれどもこの山水を贗物がんぶつだと稱する諸君子しよくんしは、悉くこれを自分の負惜まけをしみだと盲斷した。のみならず彼等の或者は「兎とに角無名の天才は安上やすあがりで好いいよ」などと云つて、いやににやにや笑ひさへした。ここに至る以上自分と雖いへども、聊いささか三円の果亭の為に辯ずる所なきを得ない。

仰鑑そもそかんてい定家なるものはややもすると虫眼鏡むしめがねなどをふり廻して、我々素人しろうとを嚇おどかしにかかるが、元來彼等は書画の真贋しんがんをどの位まで正確に見分ける事が出来るかと云ふと、彼等も人間である以上、決して全智全能と云ふ次第ぢやない。何なんとなれば、彼等の判断を下すべきものはその書画の真贋しんがんである。或は真贋に関する範圍内での巧拙かうせつである。所がその真贋なり巧拙なりの鑑定は何時いつでも或客觀的標準の定規ぢやうぎを当てると云ふ訣わけに行か

う筈がない。たとへば落款とか手法とか乃至紙墨などと云ふ物質的材料を巧に真似たものになると、その真贋を鑑定するものは殆ど一種の直覺の外に何もないと云ふ事に歸着してしまふ。が、如何に鋭敏な直覺を備へてゐたにした所で、唯過去に於て或書家なり画家なりがその書画を作つたと云ふ事実だけの問題になつたら、鑑定家にして占者を兼ねない限り、到底見分けなんぞはつきはしまい。現にこの間も何とか云ふ男の作つた贋物の書画は、作者自身も真贋を辨じなかつたと云つてゐるぢやないか。よし又それ程巧妙を極めた贋物でないにしても鑑定家に良心のある限り、真とも贋とも決定出来ないちうかんしよく中間色の書画が出て来るのは自然である。して見れば鑑定家なるものは、或種類の書画に限り、我々同様更に真贋の判別は出来ないと云つても差支ない。そこで翻つて三円の果亭を見ると、断じて果亭だと言明する事が出来ないにしても、同様に又断じて果亭でないとも言明する事の出来ないものである。既に然るからはこれを果亭と認めて壁間にぶら下げたのにしろ、毛頭自分の不名誉になる事ぢやない。況んや自分は唯、無名の天才に敬意を表する心算で――

辯じてここまで来ると、大抵の男は「わかつたよ、もう無名の天才は沢山だ」と云つた。沢山ならこれで切り上げるが、世間には自分の如く怪しげな書画を玩んで無名の天

才に敬意を払ふの士が存外多くはないかと思ふ。それらの士は、俗悪なる新画に巨万の黄金を抛つて顧みない天下の富豪に比べると、少くとも趣味の独立してゐる点で尊敬に値する人々である。そこで自分は聊かそれらの士と共に、眞贋の差別に煩はされない清興の存在を主張したかつたから、ここにわざわざ以上の饒舌を活字にする事を敢てした。所謂竹町物を商ふ骨董屋が広告に利用しなければ幸甚である。

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

鑑定

芥川龍之介

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>